■エピローグ■

地域展では一須賀古墳群の一端を紹介しましたが、「一須賀古墳群が渡来人もしくは渡来人と関わりの深い集団によって営まれた」という評価は今後も揺るがないと考えられます。

しかし、一須賀古墳群の最盛期は６世紀代ですが、これまでに周辺では同時期の大規模な集落は見つかっていません。

一須賀古墳群に隣接し、古市古墳群の次代の王墓群とみられる磯長谷古墳群は、７世紀代に造営されます。

また、一須賀古墳群の副葬品からは、鍛冶や埴輪作りといった特定の手工業との関係は見えにくく、古墳群に葬られた人びとの役割は、考古資料として痕跡を残さない文書の管理や港湾・倉庫等の管理であったと考える研究もあります。

一須賀古墳群を営んだ集団はどこに住み、どこで活躍したのでしょうか。

一須賀古墳群が 1966 年に学会に報告されて 58 年、国史跡指定からは 30 年を迎えました。

現在、出土品の再整理作業を進めており、順次公開していく予定です。

一須賀古墳群に関する今後の研究成果に注目していただければと思います。